

2025年東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	医療英語				開講期間	4月～5月	
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	クリティーンのやさしい看護英会話				出版社	医学書院	
授業のねらい	看護師は患者やその家族だけでなく、他の職種とも、多様な形でコミュニケーションを図ることが必要であり、グローバル化に伴い多国籍の人々と英語でコミュニケーションを行なう必要も出てくることが想定される。国籍問わず、すべての人に公平かつ正しく理解したうえで治療を受けていただくための説明と同意が求められてくることが想定される。グローバルヘルスの課題解決に向けて、医療現場で必要なコミュニケーション能力の基礎力をつける。						
到達目標	日常生活や医療現場で英語によるコミュニケーションが取れる力を身につける。						
評価基準	筆記試験 レポート 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	・血液検査・バイタルサインと心電図の名称と、その時の説明会話方法 ・内視鏡・超音波・X線・磁気共鳴画像の名称と、その時の説明会話方法 ・生検・点滴静脈注射・人工呼吸器・血液透析の名称と、その時の説明会話方法 ・理学療法・作業療法・食事療法・薬物療法の名称と、その時の説明会話方法	講義
2		
3		
4	事例で検査・処置の説明をする	
5	診療記録から対象の状況・状態を知る	
6	1.事例に応じた対応を会話する 2.場面に応じた対応を会話する	
7		
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	家族社会学				開講期間	4月～6月	
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書					出版社		
授業のねらい	結婚・恋愛、子育て、高齢者支援、若者の生活や働き方など、家族関係に関する主要なトピックを取り上げながら、今日の家族を社会的側面から理解するための方法を身につけ、将来の家族のありようについて想像する力を養う。						
到達目標	家族の現状と課題を理解し、社会学的な視点でものを考えることができる。						
評価基準	筆記試験 レポート 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	家族とは？／「漂流」する日本の家族	講義
2	「婚難」な時代／結婚は幸せへのパスポートか？	
3	ジェンダー平等と性の多様性	
4	現代の若者と相対的貧困	
5	ワークライフバランスと働き方改革	
6	進まない子育て支援	
7	高齢者支援と家族介護	
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	ケアリング				開講期間	9月～12月	
領域	人間の生活・社会の理解	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	アロマテラピー検定公式テキスト2020改訂版				出版社	公益財団法人 日本アロマ環境協会	
授業の狙い	ケアリングの概念を理解し、ケアリングについて理解を深める。補完代替療法を学習し体験することで、リラクゼーションについて学習する。						
到達目標	対象との相互的な関わりを通してリラクゼーションを理解できる。						
評価基準	課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	ケアリング概論① ・他者の成長を助けることとしてのケア ・ケアの要素・ケアの特質 ・さまざまな補完代替療法	講義
2	ケアリング概論② ・さまざまな補完代替療法	グループワーク・発表
3	エステティック概論 ・エステティックとソワンエステティックの語源 ・ソワンエステティックの目的・効果 ・スキントッチの重要性	講義 演習
4	東洋・西洋におけるセラピー ・定義と技法 ・アロマテラピーの効果	講義 演習
5	アロマテラピー ・精油の効果効能 ・アロマの利用方法	講義 演習
6	アロマオイルによるマッサージ① ・アロマオイルのつくり方 ・フットマッサージの技術と実践	演習
7	アロマオイルによるマッサージ② ・ハンドマッサージの技術と実践	演習
8	終講試験 ・課題レポート作成	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	栄養学				開講期間	6月～9月	
領域	人体の構造と機能	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 別巻				出版社	医学書院	
	栄養食事療法						
授業の狙い	健康にとっての栄養に関する基礎知識、疾病の回復促進する食事療法について学習する。						
到達目標	1.人間の生命を支える栄養素の種類、構造、代謝が理解できる。 2.疾病別、症状別の食事療法の基本について理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	国民の栄養の現状 食生活と食事療法の意義	講義
2	発達段階に応じた栄養管理の基本 妊産婦 小児期 更年期 高齢期	講義
3	栄養評価 1.食品成分とエネルギー 2.食事摂取基準	講義
4	臨床栄養 栄養食事療法の総合マネジメント チームケアの実践（NST）	講義
5	各健康障害と食事療法 1.一般治療食 2.糖尿病食 3.消化器疾患の食事療法	講義
6	4.腎臓病食 5.高血圧食 6.心疾患の食事療法	講義
7	特殊栄養療法 食事指導の実際	講義
8	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	疾病治療学Ⅴ				開講期間	4月～6月	
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【11】アレルギー・膠原病感染症				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【12】皮膚					医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【13】眼					医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【14】耳鼻咽喉頭					医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【15】歯・口腔					医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1					医学書院	
授業の狙い	感覚器系、精神、自己免疫系に疾患を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。						
到達目標	1.感覚器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。 2.自己免疫に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。 3.精神疾患に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	感覚器系疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 外耳炎 中耳炎 突発性難聴 めまい症 鼻中隔湾曲症	講義
2	感覚器系疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 副鼻腔炎 上顎洞がん 舌がん 扁桃腺炎 咽頭がん 生体ポリープ 唾液腺疾患	講義
3	感覚器系疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 皮膚がん 緑内障 白内障 老眼 近視 乱視	講義
4	歯科・口腔疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 齲蝕 歯周病 腫瘍	講義
5	歯科・口腔疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 顎関節症 口腔粘膜疾患	講義
6	免疫・アレルギー疾患① 主な疾患の病態生理と検査・検査 アトピー性皮膚炎 アナフィラキシー	講義
7	免疫・アレルギー疾患② 主な疾患の病態生理と検査・検査 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス シェグレン症候群	講義
8	免疫・アレルギー疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・検査 レイノー病 多発性筋炎・皮膚筋炎	講義
9	免疫・アレルギー疾患④ 主な疾患の病態生理と検査・検査 免疫不全症 自己炎症性症候群	講義
10	精神障害① 主な疾患の病態生理と検査・治療 統合失調症 気分障害 恐怖性不安障害 強迫観念	講義
11	精神障害② 主な疾患の病態生理と検査・治療 心理的外傷後ストレス障害 解離性障害 摂食障害	講義
12	精神障害③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 性同一性障害 パーソナリティ障害 認知症 睡眠障害	講義
13	精神障害④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 知的障害 小児自閉症 アスペルガー症候群	講義
14	精神障害⑤ 主な疾患の病態生理と検査・治療 多動性障害 チック障害 心身症	講義
15	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	薬理学				開講期間	4月～7月	
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 疾病の成り立ちと回復促進【3】				出版社	医学書院	
	薬理学						
授業の狙い	薬理学の基礎知識、薬物とその管理、主な薬物の特徴を理解する。						
到達目標	1.薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物の管理について理解できる。 2.主な薬物の特徴について理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	薬理学とは	講義
2	薬理学の基礎知識 体内情報伝達機序 薬の副作用機序 薬物体内動態 薬理作用	講義
3	抗感染症薬 1.感染症治療に関する基礎事項 2.抗菌薬 3.抗真菌薬	講義
4	抗がん薬 1.がん治療に関する基礎事項 2.抗がん薬各種	講義
5	免疫治療薬 1.免疫系の基礎知識 2.免疫基礎知識 3.免疫増強薬・予防接種薬 抗アレルギー・抗炎症薬	講義
6	末梢での神経活動に作用する薬物 交感神経作用薬 副交感神経作用薬 筋弛緩薬 局所麻酔薬	講義
7	中枢神経系に作用する薬物 全身麻酔薬 催眠薬 抗不安薬 抗精神薬 抗うつ薬 抗てんかん薬 パーキンソン治療薬 麻薬性鎮痛薬	講義
8	心臓・血管系に作用する薬 降圧剤 強心薬 利尿薬 血液作用薬	講義
9	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 ぜんそく治療薬 潰瘍治療薬	講義
10	物質代謝に作用する薬物 糖尿病治療薬	講義
11	皮膚科用薬・眼科用薬	講義
12	緊急の際に使用される薬物	講義
13	漢方薬 消毒薬 輸液製剤・輸血剤	講義
14	看護業務に必要な薬の知識	講義
15	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	社会福祉				開講期間	4月～5月	
領域	健康支援と社会保障制度	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度3						
授業の狙い	生活者を支援する社会福祉活動と保健医療福祉の連携、協働の必要性について学習する。						
到達目標	1.社会福祉の理念と政策を理解する。 2.社会福祉の各分野における問題と主な施策を理解できる。 3.社会福祉実践と保健医療福祉の連携について理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	社会福祉の変遷 1.日本における社会福祉の展望 2.戦後の社会福祉と福祉改革	講義
2	社会福祉の基本的性格 1.社会福祉の定義・範囲 2.社会福祉の思想 3.社会福祉の構造	講義
3	社会福祉の分野 1.高齢者福祉	講義
4	2.障害者福祉 3.児童家庭福祉	講義
5	社会福祉実践と医療・看護 1.社会福祉援助とは 2.個別援助技術（ケースワーク）	講義
6	3.集団援助技術 4.関節援助技術と関連援助技術	講義
7	5.社会福祉援助の検討課題 6.医療・看護との連携	講義
8	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	健康教育・支援				開講期間	11月～12月	
領域	健康支援と社会保障制度	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令						
授業の狙い	健康に生活を送るうえでの保健活動を理解する。						
到達目標	保健対策の動向と活動について理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	保健活動 地域保健	講義
2	保健活動 母子保健 学童期の健康管理	講義
3	保健活動 生活習慣病予防	講義
4	保健活動 難病対策	講義
5	保健活動 産業保健 職場の健康管理	講義
6	世界の保健と健康問題 世界保健機関と機能	講義
7	国際保健の課題	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	医療関係法規				開講期間	6月～7月	
領域	健康支援と社会保障制度	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度4 看護関係法令						
授業の狙い	医療過誤における看護業務と看護師の法的責任を理解する。						
到達目標	1.医療事故における法的責任について理解できる。 2.事例をとおり、看護師の業務と法的責任について理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	法の概念 憲法の基本的原理、精神	講義
2	医療関係法規 医事法規 1.保健師助産師看護師法 医師法 医療法 救急救命士法	講義
3	医療関係法規 医事法規 2.臓器の移植に関する法律 死産の届出に関する規定 看護師等人材確保に関する法律	講義
4	医療関係法規 医事法規 3.薬剤師法 診療放射線技師法 臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律 理学療法士よび作業療法士法	講義
5	看護と関係法規① 看護業務と対象を守るための法律	講義
6	看護と関係法規② 看護師を守るための法律	講義
7	看護と関係法規③ 看護活動と関係法規 診療補助に伴う事故 療養上の世話業務における事故 チーム医療と看護師の責任 継続看護における患者個人	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	社会保障				開講期間	4月～5月	
領域	健康支援と社会保障制度	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉						
授業の狙い	社会保障に関する基礎知識と社会保険制度を理解する。						
到達目標	社会保障の理念や動向と社会福祉の法制度が理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	社会保障の理念や動向、社会福祉の法制度の理解 1. 保健医療福祉の活動の基本方向 理念・憲法25条 ノーマライゼーション	講義
2	医療保障① 医療保障制度の変遷 医療保障制度の構造と体系 健康保険と国民健康保険	講義
3	医療保障② 老人保健制度 保険診療の仕組み 公費負担医療 国民医療費 医療制度改革	講義
4	介護保障 介護保険制度創設の背景と介護保険制度の歴史 概要 課題と展望	講義
5	所得保障 所得保障の仕組み 年金保障制度 社会手当 労働保険制度	講義
6	公的保障① 貧困・低所得問題と公的扶助制度 生活保護のしくみ	講義
7	公的保証② 低所得対策 近年の動向	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	公衆衛生				開講期間	11月～12月	
領域	健康支援と社会保障制度	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	健康支援と社会保障制度② 公衆衛生						
授業の狙い	公衆衛生に関わる基礎的な概念や理論、公衆衛生上の課題やその対策について学習する。						
到達目標	公衆衛生の基礎知識と健康に関する指標を理解する。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	健康と公衆衛生 公衆衛生の概念 変遷 健康と環境 疫学方法による健康の理解	講義
2	ヘルスプロモーション 高リスクアプローチ 集団アプローチ	講義
3	プライマリーヘルスケア コミュニティパワーメント	講義
4	健康指標と予防 健康に関連した指標	講義
5	地域保健活動と看護職	講義
6	生活環境が健康に及ぼす影響① 地球環境 住環境	講義
7	生活環境が健康に及ぼす影響② 食環境 感染症	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	レクリエーション論				コード	10月～12月	
領域	健康支援と社会保障制度	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	寺山久美子監修「レクリエーション第3版」				出版社	三輪書店	
授業の狙い	コミュニケーションワークのツールとしてのレクリエーションの技法を学び、対象との信頼関係の構築を習得する。						
到達目標	各実習先での対象との関係づくり、ケアプランに活用できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	レクリエーションの基本理論 1.意義 2.歴史的背景 3.現代社会における役割 4.範囲と種類 5.人の発達段階とレクリエーション	講義
2	レクリエーションの支援理論 1.支援の目標 2.理念 3.支援者の役割 4.支援の展開の基本 5.展開方法	講義
3	治療的レクリエーションの技法 1.集団の意義 2.作業療法におけるレクリエーションプログラムの立案と展開 3.レクリエーションの実施と活用	講義
4	レクリエーションサービス論 1.事業の実施 2.安全対策の基本	講義
5	ホスピタリティー・トレーニング 1.ホスピタリティー・トレーニングの理解と構造 2.ホスピタリティー・トレーニングの実際、共感のアクション 3.アイスブレイキング	講義
6	対象別の実施基本 1.発達段階にそつての基本 ①小児期 ②青年期 ③成人期 ④老年期	講義
7	2.状況・場にそつての基本 ①病院 ②老健施設 ③精神機能障害	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	臨床看護総論				開講期間	6月～9月	
領域	基礎看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	専門分野 臨床看護総論 基礎看護学/基礎・臨床看護技術第3版				出版社	医学書院	
	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②/基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③					医学書院	
	ケアに生かす検査値ガイド第2版/看護過程に沿った対症看護					医学書院	
授業の狙い	1.健康障害の経過と症状からみた看護の実際を学ぶ。 2.呼吸・循環を整える技術の知識を理解し、援助の実際を学ぶ。						
到達目標	1.健康障害のレベルとしての経過別看護（急性期、周手術期、回復期、リハビリテーション期、慢性期、終末期、等）と症状別看護を理解する。 2.呼吸・循環に影響を及ぼす因子が理解でき、援助に必要な知識・技術を習得できる。						
評価基準	筆記試験：70％ 演習参加状況・技術到達度・記録物:30%						

回	講義内容	教授方法等
1	経過・症状別看護：急性期	講義
2	経過・症状別看護：周手術期・回復期	講義
3	経過・症状別看護：慢性期	講義
4	経過・症状別看護：終末期（緩和）	講義
5	呼吸機能障害に関連した症状のメカニズムと観察 呼吸器障害に対する看護援助（人工呼吸器管理、BIPAP、気管切開）	講義
6	酸素療法：酸素投与の援助方法 ①中央配管方式 ②酸素ボンベ ③酸素マスク ④酸素カニューレ	講義
7	酸素ボンベの取り扱い・流量計算・酸素マスク装着・酸素カニューレ装着	技術演習
8	排痰ケア ①体位ドレナージ ②咳嗽介助（ハフing・スクイーミング） ③吸入の援助－超音波ネブライザー・ジェットネブライザー ④一時的吸引：口腔・鼻腔内・気管内吸引	講義
9	排痰ケアの援助の実際 ①体位ドレナージ ②咳嗽介助（ハフing・スクイーミング） ③吸入の援助－超音波ネブライザー・ジェットネブライザー ④一時的吸引：口腔内	技術演習
10	胸腔ドレナージ：低圧持続吸引器（胸腔穿刺術復習）	講義
11	循環障害に関する症状のメカニズムと観察 循環障害に対する看護援助（CVP、Aライン、スワンガンツカテーテル）	講義
12	体温管理の援助 ①発熱時の援助－冷電法 ②うつ熱時の援助 ③低体温時の援助－温電法	講義
13	抹消循環促進の援助 ①弾性ストッキング ②下腿マッサージ ③用手的リンパマッサージ	講義
14	体温管理の援助の実際 ①氷枕の作成 ②温沈の作成 科目のまとめ	技術演習
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名					与薬の援助技術	開講期間	4月～6月	
領域	基礎看護学		対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③					出版社	医学書院	
	基礎・臨床看護技術 第3版						医学書院	
	ケアに生かす検査値ガイド						学研	
授業の狙い	1.与薬の基礎知識について理解し、薬剤の管理方法、正しい与薬方法やその指導の実際を学ぶ。 2.患者の観察、薬剤の効果、副作用を正しく理解し、アセスメントする力を養う。							
到達目標	1.正しい与薬のための6R確認やダブルチェックができる。2.薬の種類、管理方法について理解できる。 3.与薬方法に応じた援助の基礎知識を理解し、実施できる。4.薬の効果、副作用を知り、患者へ説明ができる。							
評価基準	出席が総時間数の3分の2以上あること 筆記試験：70% 演習参加状況・記録物：30%							

回	講義内容	教授方法等
1	与薬の意義と看護師の役割 1.与薬の意義 2.与薬の基礎知識 3.看護師の役割	講義
2	与薬時の看護 1.経口与薬 2.吸入 3.点眼 4.点鼻 5.経皮的与薬 6.直腸内与薬(手順書作成)	講義・メディア教材視聴
3	経口与薬・外用薬与薬のデモンストレーション・演習 / 直腸内与薬演習オリエンテーション	演示・演習・技術確認
4	直腸内与薬のデモンストレーション・演習	演示・演習・技術確認
5	1.注射の基礎知識：①注射方法と種類 2.注射の実施法：①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉内注射 ④静脈内注射 ⑤点滴静脈内注射	講義・メディア教材視聴
6	①注射剤の取り扱い ②注射器と注射針 ③注射剤の準備（アンプル、バイアルの吸い上げ）デモンストレーション・演習、皮下注射、 筋肉内注射、静脈内注射の手順書作成	演示・演習
7	皮下注射の手順書確認・デモンストレーション・演習	演示・演習
8	1.アンプルからの吸い上げ 2.皮下注射 3. 振り返り	
9	筋肉内注射の手順書確認・デモンストレーション・演習	演示・演習
10	1.アンプルからの吸い上げ 2.筋肉内注射 3. 振り返り	
11	静脈内注射の手順書確認・デモンストレーション・演習	演示・演習
12	1.バイアルからの吸い上げ 2.静脈内注射 3. 振り返り	
13	1.基礎知識 点滴静脈内注射・輸液の管理・輸血管理・中心静脈カテーテル留置の介助 2.点滴静脈内注射・輸液の管理の実際：グループで体験・振り返り	講義・演示・演習
14	1.輸液ポンプの取り扱い デモンストレーション・演習 2.科目のまとめ	演示・演習・講義
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	老年看護学方法論Ⅰ				開講期間	4月～6月	
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学				出版社	医学書院	
授業の狙い	老年看護の役割や特徴を理解するとともに、高齢者の健康でその人らしい生活を支援するために必要な基礎的能力を学ぶ。						
到達目標	1.高齢者の加齢に伴う変化が生活に及ぼす影響を理解する。 2.生活機能の中核となるコミュニケーション・食事・身じたく・排泄・活動・休息について専門的知識・技術を理解する。 3.老年看護学における基本技術を修得する。 4.状況に応じた看護技術の提供を考えることができる。						
評価基準	筆記試験 出席状況 課題提出物内容						

回	講義内容	教授方法等
1	高齢者のくらしを支える援助 ①高齢者への基本動作の援助	講義
2	高齢者のくらしを支える援助 ②高齢者への転倒・転落予防の援助	講義
3	高齢者のくらしを支える援助 ③廃用症候群のアセスメントと看護	講義
4	高齢者のくらしを支える援助 ④高齢者へのコミュニケーションの援助	講義
5	【演習】高齢者のコミュニケーション	演習
6	高齢者のくらしを支える援助 ⑤高齢者の食事生活と特徴的变化	講義
7	高齢者のくらしを支える援助 ⑥高齢者への食事の援助	講義
8	【演習】高齢者の食事援助 (嚥下機能が低下した高齢者の食事摂取、嚥下テスト、嚥下体操)	演習
9	高齢者のくらしを支える援助 ⑦高齢者の排泄の特徴と排泄のアセスメント	講義
10	高齢者のくらしを支える援助 ⑧高齢者への排泄（排尿・排便）の援助	講義
11	【演習】高齢者の排泄援助（右半身麻痺、臥床患者のオムツ交換）	演習
12	高齢者のくらしを支える援助 ⑨高齢者への清潔・整容の援助	講義
13	高齢者のくらしを支える援助 ⑩高齢者への生活のリズムを整える援助	講義
14	高齢者のくらしを支える援助 ⑪高齢者へのセクシュアリティを考慮した援助、社会参加を促す援助	講義
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	母性看護学方法論Ⅰ				開講期間	4月～6月	
領域	母性看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論				出版社	医学書院	
	根拠がわかる母性看護技術					南江堂	
授業の狙い	母性看護学概論で学習した知識を基盤として、妊娠・分娩・産褥・新生児に焦点を当てる。正常な経過と、子どもを産み育てる過程を中心に、母子およびその家族に対する援助を学ぶ。						
到達目標	正常な経過を辿る妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族に対する看護実践を行うための基礎的知識を理解できる。						
評価基準	筆記試験 課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	遺伝相談 不妊治療と看護	講義
2	妊娠期の身体的特性	講義
3	妊娠期の心理・社会的特性	講義
4	妊婦と胎児のアセスメント	講義
5	妊婦と家族の看護	講義
6	分娩の要素	講義
7	分娩の経過	講義
8	産婦・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護	講義
9	分娩期の援助	講義
10	産褥経過	講義
11	褥婦のアセスメント	講義
12	褥婦と家族の看護 施設退院後の看護	講義
13	新生児の生理	講義
14	新生児のアセスメント 新生児の看護	講義
15	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	小児看護学方法論Ⅰ				開講期間	5月～7月	
領域	小児看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論				出版社	医学書院	
	専門分野 小児看護学各論					医学書院	
	写真でわかる小児看護技術					インターメディカ	
授業の狙い	小児の成長発達とそれを支える養護・環境について理解する。さらに健康を障害された小児とその家族への看護と小児に必要な技術を学ぶ。						
到達目標	①小児の成長発達段階と理論について説明できる。 ②小児の成長発達を支える養護・環境について説明できる。 ③健康を障害された子どもと家族の特徴と看護について説明できる。 ④小児に必要な技術に伴う観察項目と留意点が述べられる。						
評価基準	筆記試験 レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	小児看護学方法論 I ガイダンス（講義の進め方・評価方法） 小児の成長・発達 1)成長・発達とは 2) 成長・発達に影響する因子 3) 発達の評価	講義 ワークシート
2	小児の成長発達と養護 <1> 乳児期（発達と養護・事故防止・育児支援）	講義 ワークシート
3	小児の成長発達と養護 <2> 幼児期（発達と養護・生活指導・育児支援）	講義 ワークシート
4	小児の成長発達と養護 <3> 学童期 思春期 青年期（発達・生活の特徴・看護）	講義 ワークシート
5	小児の成長発達と養護 <3> 学童期 思春期 青年期（心の問題）	講義 ワークシート グループワーク
6	小児にとってのあそび	講義 ワークシート グループワーク
7	小児の栄養	講義 ワークシート
8	小児の健康障害と家族 <1> 病気・障害が子供と家族に与える影響 健康問題が子供と家族に与える影響	小テスト① 講義 ワークシート
9	小児の健康障害と家族 <2> 発達段階別の入院による影響と看護	講義 ワークシート
10	小児の健康障害と家族 <3> 障害のある子どもと家族への看護（医療的ケア児・染色体異常・筋ジストロフィー）	講義
11	小児の健康障害と家族 <4> 災害時の子どもと家族への看護	講義 ワークシート
12	小児に特有の技術 （フィジカル・VS測定・身体測定・抑制・穿刺・経管栄養・採尿・静脈内持続輸液固定）	小テスト② 講義 ワークシート
13		
14	小児特有の技術 <演習> （VS測定・身体測定・採尿・静脈内持続輸液固定）	演習 レポート①
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	精神看護学方法論Ⅰ				開催時期	5月～8月	
領域	精神看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統別看護学講座 精神看護学の基礎①				出版社	医学書院	
	系統別看護学講座 精神看護学の展開②					医学書院	
	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉					医学書院	
	精神看護学 学生―患者のストーリーで綴る実習展開					医歯薬出版株式会社	
授業の狙い	本科目では、精神疾患や精神障がい者の症状、精神障害の種類、特徴、その原因や経過および診断と治療・療法について理解する。精神疾患や精神障がい者が対象のこころや生活に及ぼす影響と看護実践および看護の役割を理解すること に活かす。授業方法は、講義を主として展開する。						
到達目標	1.精神に障がいがある人との関係の構築・発展のための技術を理解する。 2.精神に障がいがあり、医療や保護を受ける場を理解する。 3.精神に障がいがあり、医療や保護を受ける場での必要な看護を理解する。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	精神障がい者と生活 生活機能・対人関係・社会参加への影響	講義
2	患者－看護師関係の構築 対象理解と関係を構築するコミュニケーション技術 対象を理解するコミュニケーション技術 / 治療的コミュニケーション技術	講義 演習
3	患者－看護師関係の構築 回復につながる意図的・治療的コミュニケーションの実践	講義 演習
4	患者－看護師関係の構築 精神に障害がある人との関係性のアセスメント 再構成の目的、意義、方法 / 患者－看護師関係のアセスメント プロセスレコード	講義 演習
5	患者－看護師関係の構築 対象理解と関係を構築するコミュニケーション技術	講義
6	精神医療に必要な看護 精神科医療の治療的環境 / 入院時の看護 医療や保護を受ける場と看護師の役割	講義
7	精神科医療に必要な看護、入院時、リハビリテーション看護	講義
8	精神科医療に必要な看護 薬物、治療(ECT)、心理療法、SST	講義
9	安全を守る看護 / 行動制限と人権 日常生活での行動制限と看護 危険物、私物管理、外出、外泊、通信面会時	講義
10	安全を守る看護 / 行動制限と人権 隔離と身体拘束時の看護 / 隔離室の治療的環境と合併症	講義
11	安全を守る看護 / 行動制限と人権 ストレスマネジメントシート	講義
12	精神に障がいがある人の理解 地域で暮らす障害を抱える人との関わり方	講義 グループワーク
13	緊急事態に対する看護 自殺・暴力のリスクマネジメント	講義 グループワーク
14	緊急事態に対する看護 精神に障がいがある人への災害時心理と支援 緊急事態発生後のスタッフへのサポート	講義 グループワーク
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ				開講期間	4月～6月	
領域	地域・在宅看護論	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践				出版社	医学書院	
授業の狙い	在宅で療養する対象者への看護の提供方法と、日常生活を支える基本的な知識と技術を習得する。						
到達目標	1.看護師と多職種との連携について理解できる。 2.在宅における日常生活援助について基本的な知識と技術を習得することができる。						
評価基準	①終講試験 ②演習課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	1.在宅療養移行期にある療養者と家族への支援 ①入退院支援 ②退院前カンファレンス・意思決定支援	講義
2	2.地域ケアシステムにおける多職種連携 1) 高齢の在宅療養者の支援 ①行政 ②地域包括支援センター ③居宅介護支援事業所 ④介護サービス事業所 ⑤医療機関 ⑥介護支援専門員 ⑦訪問看護 ⑧自助・互助・共助・公助	講義
3	2.地域ケアシステムにおける多職種連携 連携の実際①	講義
4	2.地域ケアシステムにおける多職種連携 連携の実際②	講義
5 ・ 6	3.福祉用具展示場見学 ①福祉用具の種類 ②使用目的の理解 ③福祉用具の活用	福祉用具展示場見学
7	4.生活の場で提供される看護 療養者とその家族の生活様式と価値観の尊重とマナー ①在宅看護の基本姿勢 ②コミュニケーション ③訪問マナー	講義 演習
8	5.訪問看護における観察・生活機能のアセスメント ①情報収集の技術 ②価値観の多様性	講義
9	6.在宅療養者を支えるケア 食事・栄養 ① 食生活・嚥下に関するアセスメントと支援 ② 事例に合わせた食事に関する必要な介入の視点	講義
10	6.在宅療養者を支えるケア 食事・栄養 ③ 食事に関する介入方法の工夫と実践	演習
11	7.在宅療養者を支えるケア 活動と休息 ① 身体活動のアセスメントと支援 ② 睡眠のアセスメントと支援	講義 演習
12	8.在宅療養者を支えるケア 清潔・衣生活 ① 清潔・衣生活のアセスメントと支援 ② 療養者のアセスメントと支援 ③ 療養環境に合わせた援助と支援	講義
13	8.在宅療養者を支えるケア 清潔・衣生活 ④ 在宅にあるものを活用した方法の工夫 ⑤ ゴミ袋を活用したグリーパッド作成と洗髪	講義 演習
14	9.在宅療養者を支えるケア 排泄 ① 排泄のアセスメント ② 排泄環境のアセスメント ③ 機能の維持・向上を目指す援助 ④ 摘便など	講義 演習
15	11.終講試験	試験

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	成人看護学方法論Ⅱ				開講期間	4月～6月	
領域	成人看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 臨床外科看護学総論				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 臨床外科看護学各論					医学書院	
授業の狙い	急性期にある対象と家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、特に周手術期にある対象の回復過程を学習する。また、非日常的な危機的状況にある対象の危機を回避するための援助方法や看護師の役割について学ぶ。						
到達目標	1.急性期にある対象とその家族の特徴を理解できる。 2.侵襲に伴う生体反応の変化について理解できる。 3.周術期における合併症とその予防のための看護を理解できる。 4.急性期看護における医療チームメンバーの役割・連携について理解できる。 5.事例を通して具体的な看護援助を検討できる。						
評価基準	終講試験（80％） 課題提出（20％）						

回	講義内容	教授方法等
1	生命の危機状態・急性期にある人の特徴	講義・動画視聴 等
2	周術期看護①術前（外来・手術前日・侵襲を伴う検査）	講義・動画視聴 等
3	周術期看護①術前（当日の準備、術前アセスメント、術後準備）	講義・動画視聴 等
4	周術期看護②術中（麻酔法、外科的基本手技）	講義・動画視聴 等
5	周術期看護②術中（看護師の役割、手術開始～終了までの流れ）	講義・動画視聴 等
6	周術期看護③術後（手術侵襲と生体反応、創傷治癒）	講義・動画視聴 等
7	周術期看護③術直後（全身管理、術後合併症とその予防）	講義・演習 等
8	低侵襲手術（胃がん・食道がん）の看護	講義・動画視聴 等
9	開頭・開胸術を受ける患者の看護①（くも膜下出血・脳出血）	講義・動画視聴 等
10	開頭・開胸術を受ける患者の看護②（肺がん、心筋梗塞）	講義・動画視聴 等
11	急性期のがん看護（急性骨髄性白血病の造血幹細胞移植）	講義・動画視聴 等
12	集中治療を受ける患者の看護	講義・動画視聴 等
13	救急看護	講義・演習 等
14	チーム医療と看護師の役割	講義
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	老年看護学方法論Ⅱ				開講期間	6月～9月	
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学				出版社	医学書院	
授業の狙い	加齢変化との関係が深い老年期に多くみられる症状や、健康障害について知識を深め、高齢者の特徴をふまえた看護を学ぶ。						
到達目標	1. 老年期の特徴的な疾患を説明できる。 2. 諸機能における健康障害の特徴と看護を説明できる。 3. 治療を受ける高齢者の看護が理解できる。 4. 認知機能に障害がある高齢者の看護を理解できる。 5. 高齢者の強みを生かした看護過程を展開することができる。 6. 終末期の高齢者の特徴と看護を理解できる。						
評価基準	筆記試験 出席状況 課題提出物内容						

回	講義内容	教授方法等
1	治療を必要とする高齢者の看護 ①検査を受ける高齢者の看護	講義
2	治療を必要とする高齢者への看護 ②薬物療法を受ける高齢者への看護	講義
3	治療を必要とする高齢者への看護 ③手術を受ける高齢者への看護	講義
4	治療を必要とする高齢者への看護 ④リハビリテーションを受ける高齢者への看護	講義
5	高齢者特有の症状・疾患の看護 ①発熱、②熱中症、③肺炎、④COPD	講義
6	高齢者特有の症状・疾患の看護 ①痛み、②がん性疼痛、③変形性膝関節症、 ④大腿骨骨折	講義
7	高齢者特有の症状・疾患の看護 ①脱水、②嘔吐、③便秘、④腸閉塞	講義
8	高齢者特有の症状・疾患の看護 ①浮腫、②倦怠感、③褥瘡	講義
9	高齢者特有の症状・疾患の看護 ①脳卒中、②心不全、③糖尿病、④パーキンソン病	講義
10	高齢者特有の症状・疾患の看護 ①うつ、②せん妄、③認知症	講義
11	エンドオブライフケア・末期段階に求められる援助	講義
12	保健医療福祉施設および居住施設における高齢者と家族の看護	講義
13	高齢者特有のリスクマネジメント 高齢者における医療安全と災害看護	講義
14	高齢者の医療安全（KYTトレーニング）、まとめ	演習
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	母性看護学方法論Ⅱ				開講期間	6月～10月	
領域	母性看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論				出版社	医学書院	
授業の狙い	母性看護学方法論Ⅰで学習した知識を基盤として、妊娠・分娩・産褥・新生児の経過の異常とその看護を学ぶ。						
到達目標	ハイリスクな状態にある母子への看護を理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	妊娠期の異常と看護①	講義
2	妊娠期の異常と看護②	講義
3	分娩期の異常と看護①	講義
4	分娩期の異常と看護②	講義
5	産褥期の異常と看護①	講義
6	産褥期の異常と看護② メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援	講義
7	新生児の異常と看護	講義
8	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	小児看護学方法論Ⅱ				開講期間	7月～10月	
領域	小児看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	専門分野 小児看護学各論				出版社	医学書院	
	専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論					医学書院	
	小児看護技術アドバンス					インターメディカ	
授業の狙い	小児の疾患の特徴と看護を学ぶ。						
到達目標	①小児の疾患の特徴（好発年齢、原因、病態、検査、治療、処置）について説明できる。 ②それぞれの疾患に応じた看護について説明できる。						
評価基準	筆記試験（80％） グループワーク提出物・出席（20％）						

回	講義内容	教授方法等
1	小児看護学方法論Ⅱ ガイダンス 症状別看護① 発熱、発疹、発熱・発疹を呈する感染症	講義 対面
2	症状別看護② 下痢、脱水、嘔吐、痛み	講義 対面
3	急性期にある子どもと家族の看護 症状別看護③ 痙攣 疾患別看護① 呼吸器疾患：肺炎、細気管支炎、クループ	講義 対面
4	周手術期にある子どもと家族の看護 疾患別看護② 消化器疾患：腸重積、イレウス、ヒルシュスプルング病 肥厚性幽門狭窄症	講義 対面
5	慢性期にある子どもと家族の看護 疾患別看護③ 腎・泌尿器疾患：ネフローゼ症候群、尿路感染症	講義 対面
6	疾患別看護④ 内分泌疾患：1型糖尿病 疾患別看護⑤ アレルギー性疾患：気管支喘息、食物アレルギー 疾患別看護⑥ 循環器疾患：川崎病	グループワーク① 対面
7	疾患別看護④～⑥	グループワーク② 対面
8	疾患別看護④～⑥	グループワーク・発表 対面
9	疾患別看護④～⑥	講義 対面
10	特殊な状況にある小児の看護 ①安静、拒薬、食事制限 ②子どもに多い事故・外傷：熱中症、誤飲・誤嚥、熱傷、救命処置	講義 対面
11	疾患別看護⑦ 循環器疾患：心室・心房中隔欠損症、ファロー四徴症 疾患別看護⑧ 耳鼻咽喉疾患：咽頭扁桃増殖症 疾患別看護⑨ 運動器疾患：骨折	講義 対面
12	疾患別看護⑩ 神経系疾患：てんかん、脳性まひ	講義 対面
13	疾患別看護⑪ 悪性新生物：急性リンパ性白血病、脳腫瘍	講義 対面
14	終末期にある子どもと家族の看護	講義 対面
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	精神看護学方法論Ⅱ				開催時期	6月～10月	
領域	精神看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統別看護学講座 精神看護学の基礎①				出版社	医学書院	
	系統別看護学講座 精神看護学の展開②					医学書院	
	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉					医学書院	
	精神看護学 学生―患者のストーリーで綴る実習展開					医歯薬出版株式会社	
授業の狙い	本科目では、様々な精神疾患により生じる影響を踏まえて、障がいとともにその人らしく生きることを支えるために必要な看護について学習する。精神の障がいとともに生きる人の感じる生きにくさを理解し、他者や社会とのつながりを回復し、自分らしい生活様式や生活行動を送るために必要な看護を学習する。 さらに、その人らしく地域で生活を送るために必要な社会資源やサービス、精神に障がいのある人を回復させる医療チーム（多職種）との連携について学習する。その人らしく暮らすことに重要な自己決定支援についても学習する。障がいがありながら地域で生活する人や支援の実際について演習を通じて理解を深める。						
到達目標	精神の障がいと共に生きるを支える看護 1.精神の障がいとともにその人らしく生きるための看護の基本を理解する。 2.精神の障がいによる影響を踏まえその人らしさを支える看護の実際を考える。						
評価基準	レポート等の提出物：20％、筆記試験：80％						

回	講義内容	教授方法等
1	導入・シラバス説明 精神障がいの生活への影響、生活機能、対人関係、社会参加への影響	講義
2	患者－看護師関係、カウンセリング技法、コミュニケーション	講義/演習
3	回復につながる意図的・治療的コミュニケーション	講義/演習
4	アセスメント、セルフケア理論、セルフケアレベル査定	講義
5	統合失調症①(生活の障がい、対人関係、成育歴、現病歴)	講義
6	統合失調症②(アセスメント、看護の方向性、看護計画)	講義
7	気分障害①(生活課題と再燃予防)	講義/演習
8	気分障害②(生活課題と再燃予防)	講義/演習
9	摂食障害(生活課題)	講義/演習
10	精神作用物質使用による精神・行動の障がいのある人への看護 (アルコール、薬物、アディクション)	講義/演習
11	パーソナリティー障害(生活課題と看護)	講義/演習
12	地域で暮らすための社会資源と地域包括ケアシステム①	講義/演習
13	地域で暮らすための社会資源と地域包括ケアシステム②	講義/演習
14	地域で暮らすためのサポート体制と自己決定支援	講義/演習
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅲ				開講期間	7月～10月	
領域	地域・在宅看護論	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践				出版社	医学書院	
授業の狙い	在宅で療養する多様な健康状態にある人とその家族への基本的な支援の方法を学ぶ。						
到達目標	1.疾患の発症および再発、悪化を防ぎ、在宅療養を継続するために必要な支援を理解できる。 2.多様な健康状態にある在宅療養者への支援において利用できる法律制度を理解できる。						
評価基準	①終講試験 ②課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	1.シナプロジー ①	講義・演習
2	シナプロジー ②	講義・演習
3	シナプロジー ③	講義・演習
4	2.地域で暮らす 認知症 ①一人暮らし	講義
5	4.地域で暮らす 認知症 ②高齢者夫婦	講義
6	4.地域で暮らす 認知症 ③生活支援・社会資源の活用	講義
7	4.地域で暮らす 認知症症状の日常生活への影響	講義
8	5.地域で暮らす 難病患者の在宅復帰に向けた支援	講義
9	6.地域で暮らす パーキンソン病患者の在宅復帰に向けた支援 ①	講義
10	8.地域で暮らす パーキンソン病患者の在宅復帰に向けた支援 ②	講義
11	7.地域で暮らす 障害児の支援 ①医療的ケア児の支援	講義
12	9.地域で暮らす 障害児の支援 ②訪問看護の実際	講義
13	8.地域で暮らす 障がい者の支援 ①社会資源の活用 ②社会参加の援助	講義
14	9.在宅で療養する 統合失調症の支援	講義
15	10.終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	成人看護学方法論Ⅲ				開講期間	4月～6月	
領域	成人看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	成人看護学④ 慢性期看護				出版社	南江堂	
	ナーシンググラフィカ成人看護学③セルフマネジメント					メディカ出版	
	(※上記2冊参考文献)						
授業の狙い	成人期にあり慢性疾患をもつ対象とその家族の特徴を踏まえた教育的アプローチや、病気と付き合っていくためのセルフマネジメント能力を高める支援方法、看護の目的や看護師の役割を学習する。						
到達目標	1.成人期にあり慢性疾患を抱える対象およびその家族の特徴と看護を理解できる。 2.治療と療養行動に関わる主要な理論・概念を理解できる。 3.成人期の特徴を踏まえた教育的アプローチとセルフマネジメント能力を高める支援方法を理解できる。 4.慢性疾患を有する対象に関わる専門職とチーム医療を理解できる。 5.事例を通して具体的な看護援助を検討できる。						
評価基準	筆記試験(80%) 課題提出(20%)						

回	講義内容	教授方法等
1	慢性疾患を有する対象の理解	講義
2	セルフマネジメント支援とは	講義
3	血液・免疫系の障害を有する対象の支援①（白血病）	講義
4	血液・免疫系の障害を有する対象の支援②（HIV・SLE）	講義
5	消化器系の障害を有する対象の支援①（肝硬変）	講義
6	消化器系の障害を有する対象の支援②（クローン病・潰瘍性大腸炎）	講義
7	甲状腺機能障害を有する対象の支援	講義
8	腎不全を有する対象の支援	講義
9	糖尿病を有する対象の支援①	講義
10	糖尿病を有する対象の支援②	講義
11	糖尿病を有する対象の看護①（血糖測定）	演習
12	糖尿病を有する対象の看護②（インスリン注射）	演習
13	慢性疾患を有する対象の援助	講義
14	これからの慢性期看護の展望	講義
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	老年看護学方法論Ⅲ				開講期間	10月～12月	
領域	専門分野	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論						
授業の狙い	健康障害のある高齢者に対する看護実践に必要な能力を養うことをねらいとする。ここでは高齢者に多くみられる疾患や症状、障害を取り上げ、健康課題を解決するための能力を養う。						
到達目標	老年期の特徴を踏まえた看護過程の展開ができる。 1. 老年期の特徴を踏まえ看護が考えられる。 2. 必要な情報を判断し、アセスメントに活用できる。 3. 回復期に応じた看護問題を抽出できる。 4. 看護問題を解決するための看護方法を選択し、計画立案できる。 5. 患者指導を実施・評価し、より良い看護を考えることができる。						
評価基準	出席状況 課題提出物内容（提出物については指定の期日までに提出すること）						

回	講義内容	教授方法等
1	老年の看護過程について、情報提供	講義・個人ワーク
2	情報用紙、病態関連図作成	グループワーク・個人ワーク
3	情報の整理・アセスメント	個人ワーク
4	情報の整理・アセスメント	グループワーク・個人ワーク
5	全体関連図	グループワーク・個人ワーク
6	看護診断抽出	グループワーク・個人ワーク
7	看護計画	グループワーク・個人ワーク
8	指導パンフレットの作成・まとめ	グループワーク・個人ワーク

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	母性看護学方法論Ⅲ				開講期間	11月～1月	
領域	母性看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論					医学書院	
	根拠がわかる母性看護技術					南江堂	
	(参考図書) ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程					医歯薬出版株式会社	
	(参考図書) 根拠がわかる母性看護過程					南江堂	
授業の狙い	母性看護学概論・母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学習した知識を基盤として、妊娠・分娩・産褥・新生児の看護の実践に焦点を当てる。事例から看護過程の展開と母子およびその家族に対する援助の実践を学ぶ。						
到達目標	母性看護に必要な看護過程の理解と、事例に応じた看護の実践ができる。						
評価基準	課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	母性看護過程の特徴 ウェルネス概念 授業内事例紹介	講義
2	妊娠期の看護実践①	講義 グループワーク
3	妊娠期の看護実践②	講義 演習
4	妊娠期の看護実践③	講義 グループワーク
5	分娩期の看護実践①	講義 シミュレーション
6	分娩期の看護実践②	講義 シミュレーション グループワーク
7	分娩期の看護実践③	講義 演習
8	産褥期・新生児期看護過程①	講義 グループワーク
9	産褥期・新生児期看護過程②	講義 グループワーク
10	産褥期・新生児期看護過程③	講義 グループワーク
11	産褥期・新生児期看護過程④	講義 グループワーク
12	褥婦・新生児の看護の実践①	演習
13	褥婦・新生児の看護の実践②	演習
14	異常経過をたどる対象者の看護過程	講義
15	まとめ	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	小児看護学方法論Ⅲ				開講期間	11月～1月	
領域	小児看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論				出版社		
	専門分野 小児看護学各論						
授業の狙い	健康を障害され入院する小児とその家族の特徴をふまえた看護過程の展開を理解する。						
到達目標	①小児のクラスター分類に沿って情報整理ができる。 ②子どもの成長発達段階が、子どもの健康回復に与える影響を考えることができる ③家族の健康に対する考え方や管理方法が子供の健康回復に与える影響を考えることができる。 ④健康障害が小児の成長発達及び家族に与える影響を考えることができる。 ⑤子どもの発達段階と安全を考慮した看護計画を考えることができる。 ⑥健康を障害された子どもの家族への看護を考えることができる。						
評価基準	看護過程記録・課題提出状況 100%						

回	講義内容	教授方法等
1	小児看護学方法論Ⅲガイダンス 事例紹介 Tr:フェースシート	講義
2	＜健康障害・健康段階＞ Tr:クラスター1展開	講義
3	＜成長・発達段階＞ Tr:クラスター2展開	講義
4	＜家族関係・家族状況＞ Tr:クラスター3展開	講義
5	問題関連図 優先順位 Tr:記録用紙No3,No4展開	講義
6	看護計画立案 Tr:記録用紙No5	講義
7	看護計画 援助計画立案 Tr:記録用紙No7	講義
8	援助計画を基に演習	講義

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	精神看護学方法論Ⅲ				開催期間	11月～12月	
領域	精神看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	精神看護学 学生―患者のストーリーで綴る実習展開				出版社	医歯薬出版株式会社	
	系統別看護学講座 精神看護学の基礎①					医学書院	
	系統別看護学講座 精神看護学の展開②					医学書院	
	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉					医学書院	
授業の狙い	精神看護学方法論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を活用して事例を用いて講義だけでなく、学生自身が看護過程を展開しながら患者の状態をアセスメントし、看護援助を計画・立案できる能力を身につける。 精神看護学のまとめとして、精神看護の動向と課題と関心のあるところの問題について自分自身の考えをまとめ、精神看護学への関心を深める。						
到達目標	1.事例を通して統合失調症の経過に応じた看護援助について理解できる。 2.事例の症状アセスメントができる。 3.セルフケア理論に基づいた看護過程の理解を深められる。						
評価基準	レポート等の提出物 ・指定した方法で、期日を守って提出されたレポートを評価する。 レポートの内容について ・別途提示する採点表にしたがって評価する。						
回	講義内容				教授方法等		
1	シラバス・学習方法の説明 提出物と評価の説明 記録用紙の説明 学習ファイル作成の説明と作成 ◆事例紹介◆				講義 個人ワーク		
2	フェイスシート、病態関連図				グループワーク		
3	アセスメント セルフケアレベル査定 1回目				グループワーク		
4	アセスメント セルフケアレベル査定 2回目				グループワーク		
5	全体関連図、看護の方向性				グループワーク		
6	長期目標、短期目標、看護計画立案				グループワーク		
7	看護実践の発表				発表会 講義		
8	精神看護学看護過程のまとめ				発表会 講義		

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ				開講期間	10月～12月	
領域	地域・在宅看護論	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践				出版社	医学書院	
授業の狙い	在宅において医療管理を必要とする療養者へとその家族への支援を学ぶ。						
到達目標	1.在宅で行われる医療管理に対する基本的な知識と技術を習得できる。 2.医療者がいない環境下でも継続される医療管理における家族への支援と多職種との連携を考えることができる。						
評価基準	終講試験						

回	講義内容	教授方法等
1	1.医療的な呼吸管理を要する療養者への看護 ①在宅酸素療法	講義
2	1.医療的な呼吸管理を要する療養者への看護 ②在宅酸素療法	講義
3	1.医療的な呼吸管理を要する療養者への看護 ③在宅人工呼吸療法	講義
4	1.医療的な呼吸管理を要する療養者への看護 ④在宅人工呼吸療法	講義
5	2.医療的な管理を要する療養者への看護 ①胃瘻 ②在宅経管栄養法	講義
6	2.医療的な管理を要する療養者への看護 ③在宅中心静脈栄養法	講義
7	2.医療的な管理を要する療養者への看護 ④褥瘡予防・管理・創傷処置	講義
8	2.医療的な管理を要する療養者への看護 ⑤膀胱瘻 ⑥膀胱留置カテーテル	講義
9	2.医療的な管理を要する療養者への看護 ⑦人工肛門 ⑧人工膀胱	講義
10	2.医療的な管理を要する療養者への看護 ⑨血液透析 ⑩腹膜透析	講義
11	2.医療的な管理を要する療養者への看護 ⑪リハビリテーション	講義
12	3.地域・在宅における時期別看護	講義
13	4.在宅の終末期看護 ①看取り ②グリーフケア ③ACP (Advance Care Planning)	講義
14	5.災害対応時の看護	講義
15	6.終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	成人看護学方法論Ⅳ				開講期間	6月～9月	
領域	成人看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 別巻 がん看護					医学書院	
授業の狙い	死にゆく過程の多様性を理解し、終末期にある患者の尊厳と QOL を保ちながら、人生最期の時までその人らしく生き抜く事を支える看護を学習する。また、患者と、その家族が抱える全人的苦痛を軽減するための基本的緩和ケアを学ぶ。						
到達目標	1.終末期にある患者とその家族の特徴と看護を理解できる。 2.緩和ケアを必要とする患者とその家族の特徴と看護を理解できる。 3.臨死期・臨終期にある患者とその家族の特徴と看護を理解できる。 4.緩和ケアにおけるチームアプローチの意義と、多職種連携における看護の持つ専門性を理解できる。 5.事例を通して具体的な看護援助を検討できる。						
評価基準	筆記試験(80%) レポート(10%) グループワーク (10%)						

回	講義内容	教授方法等
1	終末期の理解	講義
2	緩和ケアとは	講義
3	緩和ケアにおけるコミュニケーション	講義
4	さまざまな病態への緩和ケア (心不全・呼吸不全・腎不全・肝不全)	講義
5	がんの集学的治療と看護 (肺がん・乳がん・前立腺がん)	講義
6	全人的ケア 身体的苦痛	講義
7	全人的ケア 心理的苦痛	講義
8	全人的ケア 社会的苦痛	講義
9	全人的ケア スピリチュアルペイン	講義
10	家族のケア 医療スタッフのケア	講義
11	終末期における日常生活の支援	グループワーク
12	緩和ケアにおけるチームアプローチと看護の役割	講義
13	臨死期のケア	講義
14	緩和ケアにおける倫理的課題	グループワーク
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅴ				開講期間	12月～2月	
領域	地域・在宅看護論	対象学年	2	単位数	1	時間数	15
使用教科書	地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践				出版社	医学書院	
授業の狙い	在宅療養者の置かれている個別的な環境と価値観、ニーズに沿った看護過程の展開を学ぶ。						
到達目標	1.対象の価値観を尊重し、自立支援、自律支援、自己決定支援を意識した看護を考えることができる。 2.家族支援および多職種連携をもって、対象の生活を24時間365日支える看護を考えることができる。						
評価基準	①記録提出 ②学習態度						

回	講義内容	教授方法等
1	1.在宅看護における看護過程の特性	講義 グループワーク
2	2.情報の整理、アセスメント	グループワーク
3	3.在宅看護におけるアセスメント ①	グループワーク
4	在宅看護におけるアセスメント ②	グループワーク
5	5.全体関連図 6.看護問題の抽出	グループワーク
6	7.優先順位の決定 8.問題リスト	グループワーク
7	9.看護計画立案 10.発表準備	グループワーク
8	11.グループ発表 12.評価修正 記録の提出	発表

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名		成人看護学方法論Ⅴ			開講期間	9月～12月	
領域	成人看護学	対象学年	2	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 臨床外科看護学総論				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 臨床外科看護学各論					医学書院	
	ゴードンの機能的健康パターンに基づく 看護過程と看護診断					ヌーヴェルヒロカワ	
授業の狙い	周手術期における術後合併症予防や異常の早期発見、患者指導に必要な科学的根拠に基づいた看護を学ぶ。また、看護問題の解決に必要な思考プロセス（問題発見能力、問題解決能力、判断能力、応用能力）を養う。						
到達目標	成人期の特徴を踏まえた看護過程の展開ができる。 1.手術や麻酔の侵襲に伴う生体反応を理解できる。 2.必要な情報を判断し、アセスメントに活用できる。 3.周手術期の時期に応じた看護問題を抽出できる。 4.看護問題を解決するための看護方法を選択し、計画立案できる。 5.患者指導を実施・評価し、より良い看護を考えることができる。						
評価基準	提出物(レポート、グループ活動等) 100%						

回	講義内容	教授方法等
1	成人看護過程について／事例提示	講義
2	事例の病態関連図（麻酔侵襲・手術侵襲）	個人ワーク
3	情報整理／アセスメント（ゴードンの項目2～6）	個人ワーク
4	急性期の全体関連図	グループワーク
5	急性期の看護診断（オペ当日・術後1日目）／優先順位	グループワーク
6	急性期の看護診断	ディスカッション
7	援助計画（①術後ベッド/②術後の観察/③離床）	個人ワーク
8	援助実施（①術後ベッド/②術後の観察/③離床）	実践（実習室）
9		
10	事例提示（回復期） 情報整理/アセスメント（ゴードンの項目 1 ～11）	個人ワーク
11	回復期の看護診断／優先順位	グループワーク
12	回復期の看護診断	ディスカッション
13	看護計画・援助計画（生活・退院指導）	グループワーク
14	援助実施（生活・退院指導）	実践
15	まとめ	講義

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	基礎看護学実習Ⅱ			時期	2年次前期
目的	受け持ち対象者の看護援助を通して看護過程を展開することの必要性や重要性を理解することができる				
目標	1.対象を理解するために適切な方法で情報収集し、ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いてアセスメント(分析・解釈)ができる。 2.受け持ち対象の個別性をふまえた看護計画が立案できる。 3.看護過程を展開し、安全・安楽・自立・個別性をふまえた援助が実践できる。 4.看護実践をふまえて評価・修正ができる。 5.実習を通して自らの学習課題を明確にすることができる。 6.医療チームの一員としての自覚と責任を認識し看護学生としてふさわしい行動がとれる。				
対象学年	2	単位数	2	時間数	90
実習目標			学習内容		
1.対象を理解するために適切な方法で情報収集し、ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いてアセスメント(分析・解釈)ができる			1)健康障害が及ぼす影響 ①対象の発達段階 ②対象の身体的特徴 ③対象の健康障害の程度・経過 ④対象の健康状態が日常生活に及ぼす影響 ⑤対象の健康障害が精神的・社会的側面に及ぼす影響 2)情報収集の手段 ①焦点をあてた意図的な情報収集 ②コミュニケーションスキルの活用 ③積極的傾聴 3)収集したデータの整理 ①情報の解釈・分析 ②情報の関連づけ ③健康問題の抽出		
2.受け持ち対象の個別性をふまえた看護計画が立案できる			1)対象の状態・状態をふまえた目標設定 2)個別性のある具体的な計画の立案 3)対象の安全・安楽を考慮した計画の立案		
3.看護過程を展開し、安全・安楽・自立・個別性をふまえた援助が実践できる			1)対象の反応を観察しながらの実施 2)セルフケアの能力に応じた援助の実施		
4.看護実践をふまえて評価・修正ができる			1)対象の状況に応じた計画の追加・修正 2)目標達成の評価及び評価内容のフィードバック		
5.実習を通して自らの学習課題を明確にすることができる			1)自己の行動の振り返りと今後の課題		
6.医療チームの一員としての自覚と責任を認識し看護学生としてふさわしい行動がとれる			1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動		

構成		
病院実習		
回	時間	内容
1日目 (実践活動外時間)	2	全体オリエンテーション
2日目 (実践活動外時間)	8	①オリエンテーション実施・身だしなみ確認 ②事前学習内容確認 ③受け持ち患者の病態関連図作成 ④受け持ち患者の援助計画作成
3日目	8	①病棟オリエンテーション(電子カルテの取り扱い含む) ②受け持ち患者の情報収集
4日目	8	①受け持ち患者の情報収集・受け持ち患者の援助を見学または援助に参加する。 ②病態理解・アセスメントをし、個別性に応じた援助計画を立案する。
5日目	8	①受け持ち患者の情報収集・受け持ち患者の援助を見学または援助に参加する。 ②病態理解・アセスメントをし、個別性に応じた援助計画を立案する。
6日目 (実践活動外時間)	8	①思考の整理(受け持ち患者の情報整理、看護診断・優先度・看護の方向性を検討する。) ②担当教員と中間面談
7日目	8	①受け持ち患者の援助実施・評価 ②病棟担当者同席の上、看護過程展開の発表
8～9日目	8	①看護計画に基づき受け持ち患者の看護実践・評価
10日目 (実践活動外時間)	8	①思考の整理(看護計画に基づき受け持ち患者の看護実践・評価・修正)
11日目	8	①看護計画に基づき受け持ち患者の看護実践・評価・修正 ②病棟担当者とともに最終面談 ③最終カンファレンス
12日目 (実践活動外時間)	8	①振り返り・まとめ・全体学びの発表 ②記録の整理・提出

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	老年看護学実習			時期	2年次後期
目的	老年期の特徴を踏まえ、高齢者自身が持つ『持てる力』に着眼し、自立や安全性を考慮した看護の基本的な知識・技術・態度を修得する。				
目標	1.高齢者の加齢に伴う身体的・精神的・社会的加齢変化及び健康状態と家族についてを理解する。 2.高齢者の日常生活維持・向上に向けた日常生活援助を実践する。 3.高齢者の人生観・価値観を尊重し、QOLを考慮した看護を実践する。 4.高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の連携および看護の役割を理解する。 5.看護実践を通し自己の老年観を明確にする。 6.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす				
対象学年	2	単位数	2	時間数	90
実習目標			学習内容		
1.高齢者の加齢に伴う身体的・精神的・社会的加齢変化及び健康状態と家族についてを理解する。			1)老年期の発達課題と対象の理解 2)対象の生活背景の理解 3)身体的、精神的、社会的変化 4)加齢変化における個人差の理解 5)療養生活に対する高齢者及び家族の受け止め方 6)日常生活に影響を及ぼしている因子(疾患、症状、加齢など) 7)老年期におこりやすい疾患、症状の病態的理解と健康レベルの理解 8)家族の支援状況や介護力		
2.高齢者の日常生活維持・向上に向けた日常生活援助を実践する。			1)日常生活の把握 ①食事、排泄、活動、休息、清潔、衣生活、コミュニケーション能力(視覚、聴覚などの感覚機能低下、認知機能(記憶力・判断力)など) ②日課 ③ADL,IADLの評価 2)身体機能を低下させている要因 3)日常生活を阻害している要因 4)疾患の進行及び合併症の危機予測 5)事故誘発の危険の予測 6)セルフケア能力に応じた機能の維持や自立を促す援助計画の立案と援助の実際 7)二次障害を予想し、安全・安楽に留意した看護の提供		
3.高齢者の人生観・価値観を尊重し、QOLを考慮した看護を実践する。			1)対象の加齢変化や状態に合わせたコミュニケーション 2)対象の自尊心を尊重した関わり(礼儀・言葉遣い・態度) 3)対象の生活史をふまえた関わり ①高齢者が大切にしていることや楽しみ、生きがい ②高齢者の価値観・人生観		
4.高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の連携および看護の役割を理解する。			1)対象の生活の場である施設の特徴をふまえ看護師の役割 2)対象者の支援にかかわる多職種連携 3)社会資源の活用		
5.看護実践を通し自己の老年観を明確にする。			1)対象の人生観・価値観を尊重し、その人らしさを支える看護の必要性 2)対象の生活機能に影響している因子と日常生活援助の必要性		
6.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。			1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動		

構成		
施設実習		
回	時間	学習進度
1日目 (実践活動外時間)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・全体オリエンテーション ・事前学習内容提示
2日目 (実践活動外時間)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションの実施(全体オリエンテーションを含む) ・事前学習の確認 ・受け持ち利用者の身体的・精神的・社会的変化についてどのような情報が必要か整理する
3日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・施設オリエンテーション ・援助の見学 ・受け持ち利用者の情報収集(実習記録No1、2)
4日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・援助の見学 ・受け持ち利用者のアセスメント、課題の抽出(No2)
5日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・援助の見学 ・受け持ち利用者のアセスメント、課題の抽出(No2、No4)
6日目 (実践活動外時間)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・思考の整理 ・援助計画の立案(No7) ・技術練習
7日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・援助計画の修正、日常生活援助の実施・評価・修正(No7) ・中間面談
8日目	8	日常生活援助の実施・評価・修正
9日目 (実践活動外時間)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション実施に向けての準備 ・記録の整理
10日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち利用者への日常生活援助の実施・評価・修正 ・レクリエーションに向けての準備(グループでNo7に計画)
11日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち利用者への日常生活援助の実施・評価・修正 ・レクリエーションの実施・振り返り ・No6の記載
12日目 (実践活動外時間)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の整理 ・グループ別で「高齢者を援助するうえで必要なこと」のディスカッション ・最終面談

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	成人・老年看護学実習 I			時期	2年次後期
目的	成人期・老年期の発達段階や特徴を踏まえ、対象の日常生活機能の維持・回復を目指し、社会復帰に向けた看護の基本的な知識・技術・態度を修得する。				
目標	1.成人・老年期の対象の特徴と家族について理解する 2.回復期看護の特徴を理解する 3.対象の生活機能と背景要因を捉え、社会復帰に向けた看護を実践する 4.回復期看護における看護師の役割について理解する 5.対象が安心して治療できるためのチームアプローチのあり方について理解する 6.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす				
対象学年	2	単位数	2	時間数	90
実習目標			学習内容		
1.成人・老年期の対象の特徴と家族について理解する。			1)成人期・老年期の発達段階・発達課題の理解 2)入院前の生活背景の理解 3)日常生活上の健康管理法 4)現病歴・症状・既往歴 5)身体的な加齢変化における個人差の理解 6)治療生活に対する対象、及び家族の受け止め方 7)日常生活に影響を及ぼしている因子(疾患、症状、加齢など) 8)成人期・老年期におこりやすい疾患、症状の病態と健康レベルの理解 9)家族の支援状況		
2.回復期看護の特徴を理解する。			1)疾病の原因 2)機能障害の部位(器官)と程度 3)機能障害に伴う、検査・治療 4)セルフケア能力の把握 ①食事、排泄、活動・休息、清潔・整容、更衣、コミュニケーション能力 ②知覚(視覚、聴覚などの感覚機能など) ③認知(記憶力・判断力・HDS-R・MMSEなど) ④ADL、IADLの評価 5)ボディイメージ・自己肯定感の把握 6)コーピング行動・障害受容の段階(コーン)と受容の程度の把握 7)残存機能とセルフケア阻害因子の把握 8)健康管理能力と自己効力感の把握 9)社会生活継続のために必要なセルフケアの把握 ①セルフケア低下の理解 ②セルフケアにおける依存と自立		
3.対象の生活機能と背景要因を捉え、社会復帰に向けた看護を実践する。			1)セルフケアの再構築を促す、看護計画の立案と実践 2)アドボカシーを意識した意思決定支援 3)エンパワーアプローチの実践 4)アンドラゴジー(ジェロゴジー)への看護指導(教育)計画の立案と実践 5)社会的役割を含め自己概念の再構をめざす看護実践		
4.回復期看護における看護師の役割について理解する。			1)対象が望む生活の再構築 2)対象の人生観・価値観を尊重し、その人らしさを支える看護の必要性 3)回復期看護師の役割をふまえた自己の看護観の構築		
5.対象が安心して治療しているためのチームアプローチのあり方について理解する。			1)障がいを抱えながら地域で生活するための多職種連携 2)社会資源の活用		
6.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。			1)責任ある行動 2)主体的な実習・学習 3)他者を尊厳・尊重する態度(誠実さ) 4)医療(保健)チームの一員としての人間関係の構築		

構成		
病院実習		
回	時間	学習進度
1日目 (実践活動外時間)	2	全体オリエンテーション
2日目 (実践活動外時間)	8	①実習病院オリエンテーションの実施 ②事前学習の確認 ③受け持ち患者の疾患について学習 ④受け持ち患者の病態関連図作成(No3) ⑤受け持ち患者の援助計画作成(No7) ⑥臨地実習初日の行動計画(No6)の立案
3日目	8	①病院オリエンテーション ②病棟オリエンテーション ③行動計画(No6)に沿って、作成した援助計画(No7)について、援助の見学・および一部実施 ④実施した援助について、SOAP形式で振り返る(No6) ⑤受け持ち患者の情報収集・整理(No1・No2) ⑥アセスメント(No2)・関連図(No3)にて看護の方向性を見出す
4日目	8	①行動計画(No6)に沿って、作成した援助計画(No7)について援助の見学・および一部実施 ②実施した援助について、SOAP形式で振り返る(No6) ③受け持ち患者の情報収集・整理(No1・No2) ④アセスメント(No2)・関連図(No3)にて看護の方向性を見出す
5日目	8	①行動計画(No6)に沿って、作成した援助計画(No7)について援助の見学・および一部実施 ②実施した援助について、SOAP形式で振り返る(No6) ③受け持ち患者の情報収集・整理(No1・No2) ④アセスメント(No2)・関連図(No3)にて看護の方向性を見出す
6日目 (実践活動外時間)	8	①思考の整理(看護計画の実施に向けての準備、課題の整理や行動計画の作成) ②個別記録指導 ③技術練習
7日目	8	①看護診断(No4)をふまえた看護計画立案(No5) ②看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施 ③看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6) ④実習指導担当者と共に中間面談
8日目	8	①看護診断(No4)をふまえた看護計画立案(No5) ②看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施 ③看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6)
9日目 (実践活動外時間)	8	①初期計画カンファレンス(初期計画を資料にして、グループ内で検討する) ②思考の整理(看護計画の評価・修正に向けての準備、課題の整理や行動計画の作成) ③個別記録指導 ④技術練習
10日目	8	①追加・修正した看護計画立案(No5) ②追加・修正した看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施 ③看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6)
11日目	8	①追加・修正した看護計画立案(No5) ②追加・修正した看護計画(No5)に基づいた行動計画(No6)を立案し、援助の実施 ③看護診断ごとの看護計画を実施し、援助による患者の反応を結果とし、SOAP形式で分析(No6) ④病棟担当者と共に最終面談
12日目 (実践活動外時間)	8	①追加・修正した看護計画についての評価(No5)・・・2回目 ②学びの共有(事例検討) ③記録物の整理・提出 ④必要な知識の定着の確認

東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	地域・在宅看護論実習Ⅰ			時期	2年次後期
目的	地域住民の社会生活維持、健康の保持・増進のために必要な基本的知識・技術・態度を養う。				
目標	1.地域の特徴や多様な環境の中で生活する人々を理解する。 2.地域で生活する人々の健康の保持・増進のための活動に参加することができる。 3.地域で生活する人々の価値観を尊重し、生活を維持するための支援について理解する。 4.地域で生活する人々の健康の保持・増進、生活維持のために活用できる社会資源や保健医療福祉チームの連携を理解する。 5.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。				
対象学年	2	単位数	2	時間数	90
学習方法					
地域包括支援センター、通所介護(デイサービス)、特別支援学校、就労支援センター、福祉作業所、社会福祉協議会、児童会館					
実習目標			学習内容		
1.地域の特徴や多様な環境の中で生活する人々を理解する。			1)暮らしと地域 ①地域の定義 ②暮らしを構成するもの 2)人々の暮らしと地域の多様性 ①人口構成 ②産業構造 ③住民・文化 ④人口密度 ⑤高齢者人口 ⑥地域高齢者の現状 ⑦地区の課題 ⑧ハザードマップ ⑨まちづくり 3)暮らしと地域を理解するための考え方 ①システム理論 ②個人・家族・地域システムの関係 ③システム思考(鳥の目、虫の目) ④暮らしと地域を理解するためのシステム思考 ⑤システム思考でとらえる地域システム ⑥システム思考とクリティカルシンキング 4)地域・施設を理解 ①施設利用者 ②利用状況 ③利用目的 ④施設毎の特徴の比較 ⑤施設周辺の地域・生活圏 5)人々の暮らしの理解 ①地区踏査 ②フィールドワーク ③地域での暮らし方 ④生活と生きがい ⑤生活スケジュール 6)学生1人につき3施設での実習 ①地域包括支援センター ②通所介護(デイサービス) ③特別支援学校 ④就労支援センター ⑤福祉作業所 ⑥社会福祉協議会 ⑦児童会館 7)グループ学習 ①グループ内で、学生毎に違う施設実習の学びの共有		
2.地域で生活する人々の健康の保持・増進のための活動に参加することができる。			1)暮らしと健康の関係 2)暮らしの中で健康をとらえる ①健康の多様性 ②健康な暮らしの支援 ③予防とヘルスリテラシーの向上 ④暮らしと健康の関係 ⑤生きがいとストレスコーピング 3)暮らしの中で生じる健康問題とその影響 ①日常生活に影響を及ぼしている因子 ②発達段階と健康レベルの理解 4)家族の暮らしと健康 ①対象と家族の受け止め方 ②家族の支援状況 ③家族の健康 5)生活を維持する介護予防 6)施設で行われている活動の理解(目的、参加者、内容、効果) 7)施設におけるリスクマネジメント 8)施設で行われている活動の準備、見学、参加		
3.地域で生活する人々の価値観を尊重し、生活を維持するための支援について理解する。			1)地域で生活する人々のニーズ 2)地域で生活を維持していくために必要な支援 ①セルフケア力を引き出す支援 ②尊厳を守り意思を尊重した暮らしの支援 3)利用者の理解 ①対象と家族の受け止め方 ②家族の支援状況 ③身体的な加齢変化や、障害における個人差の生活への理解 4)生活と経済状況への理解 5)経済的社会的自立と支援活動		
4.地域で生活する人々の健康の保持・増進、生活維持のために活用できる社会資源や保健医療福祉チームの連携を理解する。			1)地域包括ケアシステム ①介護予防と包括的支援事業の実際 2)地域共生社会 ①自助・互助・共助・公助 ②フォーマル・インフォーマルサービス ③見学場面からの気づきの共有 3)地域の福祉課題 ①見学場面からの気づきの共有 ②カンファレンス 4)実習施設内外の連携 ①連携場面に参加する ②地域包括支援における多職種連携 ③障害児とその家族の価値観 ④障害児とその家族への支援 ⑤子どもの発達に応じた支援 ⑥母子への支援 ⑦就労支援 ⑧多様な社会資源の適用と活用 ⑨横断的な連携ネットワークの実際 5)施設見学の学びの共有 6)グループ学習 ①グループ内で、学生毎に違う施設実習の学びの共有		
5.医療チームの中での看護学生としての役割と責任を果たす。			1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 ①安全面に配慮した看護 ②ハラスメント 2)個人情報の管理 ①プライバシー保護 ②個人情報保護法に遵守した活動 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) ①健康管理 ②出席管理 ③タイムマネジメント ④ルールの順守 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談(・確認) 6)相手の気持ちや立場を考えた言動・行動		

構成		
回	時間	学習進度
学内実習		
1日目	2	<p>全体オリエンテーション</p> <p>①施設の概要と実習全体の構成を把握。</p> <p>②発表会グループ 初回ミーティング</p> <p>【発表グループメンバー構成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ施設実習先が違いう学生で構成する。同グループ内で実習施設が重複しないように構成する。 ・施設での実習活動について学生一人一人が責任をもって、グループに報連相をし連携の実践とする。 ・体験していない人へ理解できるまで説明できることを重視する。 ・グループ活動を通して多職種連携について実践的な学習効果を得る。 <p>記録用紙：NO1、NO2、NO9</p>
2日目	8	<p>①実習施設が同じ学生同士の学びの共有：施設周辺の地区踏査を事前に協同学習する。</p> <p>②発表会グループでの学びの共有：最終日の発表会についてグループ内で相談と準備。</p> <p>③最終日の発表会準備：情報収集の内容について意見交換による、共同学習。</p> <p>記録用紙：NO1、NO2、NO9</p>
臨地実習(1施設目)		
3～5日目	24	<p>①施設オリエンテーション</p> <p>②施設役割の理解</p> <p>フィールドワーク方法を用い、実施内容、見学内容、観察内容、気づきについて客観的に記述する。</p> <p>③地域における生活者への支援活動について考察する。(自助・互助・共助・公助の場面を探索する)</p> <p>④カンファレンス：メンバーとの語り合い、支援活動の考察と自己の振り返りを行う</p> <p>記録用紙：NO1、NO2、NO3、NO4、NO6</p>
学内実習		
6日目	8	<p>①1施設目発表会：1施設目について意見交換、語り合いにより学びの共有。</p> <p>追加学習を促進し探索する。</p> <p>②グループ共同学習。2施設目の実習に向けて、話し合いにより実習の目的目標を明文化する。</p> <p>③グループ共同学習。最終日の発表会の準備(地域包括支援、地域共生社会、自助・互助・共助・公助場面の話し合い)記録用紙：NO9</p>
臨地実習(2施設目)		
7～9日目	24	<p>①施設オリエンテーション</p> <p>②施設役割の理解</p> <p>フィールドワーク方法を用い、実施内容、見学内容、観察内容、気づきについて客観的に記述する。</p> <p>③地域における生活者への支援活動について考察する。(自助・互助・共助・公助の場面を探索する)</p> <p>④カンファレンス：メンバーとの語り合い、支援活動の考察と自己の振り返りを行う</p> <p>記録用紙：NO1、NO2、NO3、NO4、NO6</p>
臨地実習(3施設目)		
10～11日目	16	<p>①施設オリエンテーション</p> <p>②施設役割の理解</p> <p>フィールドワーク方法を用い、実施内容、見学内容、観察内容、気づきについて客観的に記述する。</p> <p>③地域における生活者への支援活動について考察する。(自助・互助・共助・公助の場面を探索する)</p> <p>④カンファレンス：メンバーとの語り合い、支援活動の考察と自己の振り返りを行う</p> <p>記録用紙：NO1、NO2、NO3、NO4、NO6</p>
学内実習		
12日目	8	<p>①グループ共同学習。2施設目、3施設目について意見交換、語り合いにより学びを共有する。</p> <p>②発表会の準備(地域包括支援、地域共生社会、自助・互助・共助・公助場面の話し合い)</p> <p>③学びの発表会 (ロイノートに提出)題目：「看護学生が考える地域共生社会について」</p> <p>④実習記録提出 記録用紙：NO1～NO8、事前学習</p>